

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒が自律しまた安心して暮らすことのできる学校づくりと、社会で自立し社会に貢献できる人材の育成

## 2 中期的目標

## 1 セーフティネットの高校としての、外部から見てわかりやすいコンセプトをもった学校づくり

## (1) 生徒が安心して暮らすことのできる学校づくり

## ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導

- ・障がいのある生徒など配慮を要する生徒に対する組織的支援
- ・配慮を要する中学3年生に関する中学校との連携充実
- \* 配慮を要する中学3年生について、入学前からの連携(平成25年度8名)を毎年2名ずつ増し、28年度には15名とする。

## イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

- ・生徒の実態に即し、生徒指導内規とその運用についての改善を図る。
- \* 停学人数(平成25年度は停学人数が前年度より36.7%減少)を26年度以降毎年10%ずつ減少させる。総停学日数(25年度は63.7%減少)を26年度以降毎年10%ずつ減少させる。

- ・不登校・いじめられ経験をもつ生徒が登校改善できるよう図る。

- \* 新入生の登校改善状況(平成25年度入学生は、中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ生徒のうち、86%が改善)を維持する。

## ウ 部活動の活性化

- ・入部を促す取組みの継続と強化

- ・新入生体験入部を充実させる。また部活動紹介を全校生徒対象に年2回実施する。

- \* 平成26年度は耐震工事によりグラウンド面積の6割が使用不可となるが、部活動加入率(平成25年度52.6%)は減少させない。

\* 保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度(平成25年度91.3%、但し、「わからない」を母数から除す)を26年度は93%としそれを維持する。

\* 生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答(平成25年度は「楽しいと思う」67.5%、但し、「どちらともいえない」を母数から除す)を26年度以降毎年3%上昇させ、28年度に77%にする。

\* 中退率(平成25年度は前年度より3.82%減の4.27%)を26年度は3.5%とし、28年度に大阪府平均(平成24年度1.8%)にする。

## 2 生徒が将来に展望をもてる教育を進める学校づくり

## (1) 学力の充実と希望進路の実現

## ア 基礎基本の定着

- ・1年生「産業社会と人間」を活用した「学び直し」学習を平成26年度新入生でも継続するとともに、2年生「総合的な学習の時間」での国語の取組みを充実させる。

- ・授業規律の徹底(懲戒に結び付けた強力な指導)

- ・先進校視察による授業力向上(他校訪問5名以上)

- \* 生徒対象学校教育自己診断で、「授業がわかりやすい」回答(平成25年度は「授業がわかりやすく楽しい」48.8%、但し、「どちらともいえない」を母数から除す)を26年度以降毎年5%ずつ上昇させ、28年度には65%にする。

## イ 教職経験の少ない教員の教育力向上

- ・「新人育成プロジェクト」による組織的指導、ミドルリーダーによる指導強化、学校説明会参加(のべ20名)、地域での中学生進路行事参加(2回)

- \* 経験の少ない教員による相互授業見学・相互検証(平成25年度は一人平均約3回)維持。

## ウ 遅刻減の取組みの継続・強化

- ・遅刻減に向けた組織的な取組みの継続

- \* 遅刻率(平成25年度は前年度に比べ39.9%減少)を26年度は前年度比30%減少させ、27年度以降は毎年10%ずつ減少させる。また、欠席率・早退率(平成25年度は各21.7%減・24.1%減)を悪化させず維持する。

## エ 進路指導の強化

- ・進学指導の強化

- \* 3年生に少人数の特別進学クラスを1クラス設置し、進学に特化した指導を進め、指定校推薦入試以外の大学合格者数の2割増と、国公立大学合格、及び難易度の高い私立大学の合格を図る。

- \* 進路未決定卒業生(平成25年度は前年度に比べ7.3%減少し、4.2%)を26年度も維持する。

- ・電気工事士資格取得(平成25年度2名)4名をめざし、27年度以降は毎年2名ずつ増加させる。

## (2) 国際交流の継続

- ・韓国姉妹校(セヒョン高校)との交流継続、国際交流部の強化

- \* インターネット会議等による交流の継続・維持(平成25年度は5回実施)

## (3) 学校協議会の活性化

## ア 委員の活性化

- ・委員の半数交代と女性委員率5割(平成25年度は女性率14%)

## イ 内容充実

- ・保護者・地域住民の傍聴のべ5名(平成25年度0名)

- ・実時間数確保6時間(平成25年度は4.5時間)

## 3 地域社会の一員として、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり

## (1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

## ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携

- ・保育園・小学校・中学校・高齢者福祉施設・城東区役所・警察署との交流・連携の継続と強化

- \* 野菜工場の生産物の配布(平成25年度3回)を維持する。

## イ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続と地域への情報発信強化

- ・「成城カルチャー講座」の継続

- \* 受講人数(平成25年度はのべ70名受講)を26年度は40名とし、それを維持する。

- ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。

- \* 文化祭・体育祭来場者数(平成25年度は530名)を平成26年度は600名とし、毎年10%ずつ増加させる。

## ウ 学校からの発信強化

- ・校長が先頭に立った情報発信の継続

- ・校門横木製掲示板、「成城高校電子掲示板」、成城高校メールマガジン、ホームページ更新、地元自治会掲示板、地域の回覧板回数活用充実

- \* 活用・更新の合計回数(平成25年度は合計約370回)を400回とし、それを維持する。

- ・中学校進路指導主事・教員及び塾・予備校関係者対象学校説明会(平成25年度は合計30名)充実させ、参加者を毎年10%ずつ上昇させる。

- ・マスメディアの活用7回(平成25年度は民放での放送2回、読売新聞3回・朝日2回・産経2回・日経1回・大阪日日3回等、マスメディア計13回)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 セーフティネットの高校として、わかりやすいコンセプトをもった学校づくり	(1)生徒が自律し安心して暮らすことのできる学校づくり ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導 イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に即した生徒指導 ウ 部活動活性化	ア・障がいのある生徒など配慮を要する生徒に対する組織的支援 ・配慮を要する中学3年生に関する中学校との連携充実  イ・生徒の実態に即した生徒指導内規とその運用についての改善を図る。  ・中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ生徒が登校改善できるよう、いじめを許さない・見逃さない姿勢を継続、中学校・塾への発信を強化、在校生には校長が先頭に立った訴え継続  ウ・入部を促す取組みの継続と強化のために、部活動紹介の内容を充実させ、全学年対象に2回実施、また新入生の体験入部を強化する。	ア・配慮を要する中学3年生に関する本校入学前からの連携 10名(平成25年度8名) イ・停学人数を10%減(平成25年度は停学人数が前年度より36.7%減)。総停学日数を10%減(25年度63.6%減) ・中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善率を維持(平成25年度新入生は、86%が改善) ウ・部活動加入率維持(平成25年度52.6%)  *生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」生徒の回答率70%(平成25年度は「楽しいと思う」67.5%、但し、「どちらともいえない」を母数から除す) *保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度を93%(平成25年度91.3%、但し、「わからない」を母数から除す) *中退率(平成25年度は前年度比3.82%減の4.27%)を26年度は3.5%とする。	

<p>2 生徒が将来に展望をもてる教育を進める学校づくり</p>	<p>(1) 学力の充実と希望進路の実現 ア 基礎基本の定着</p> <p>イ 教職経験の浅い教員の教育力向上</p> <p>ウ 遅刻減の取り組み継続</p> <p>エ 進路指導強化</p> <p>(2) 国際交流の継続</p> <p>(3) 学校協議会の活性化 ア 委員の活性化</p> <p>イ 内容充実</p>	<p>ア・1年生「産業社会と人間」を活用した「学び直し」学習を平成26年度新入生でも継続するとともに、2年生「総合的な学習の時間」で国語の取組みを充実させる。 ・授業規律の徹底(懲戒に結び付けた強力な指導)</p> <p>イ・「新人育成プロジェクト」による組織的指導、ミドルリーダーによる指導強化 ・経験の浅い教員による相互授業見学・相互検証の制度化</p> <p>・学校説明会参加、地域の中学生進路行事参加</p> <p>ウ・遅刻減に向けた組織的な取り組みの継続・強化により、遅刻率の改善と欠席率・早退率を悪化させない取り組みを進める。</p> <p>エ・進学保障強化のため、3年生に少人数の特別進学クラスを1クラス設置し、進学の特化した指導を進める。</p> <p>・電気工事士資格取得者増</p> <p>(2)・韓国姉妹校(セヒョン高校)との交流継続、国際交流部の強化</p> <p>(3)ア・委員構成刷新と女性委員率増</p> <p>イ・保護者・地域住民の傍聴促進</p> <p>・実時間数確保</p>	<p>ア・生徒対象学校教育自己診断で、「授業がわかりやすい」54%(平成25年度は「授業がわかりやすく楽しい」48.8%、但し、「どちらともいえない」を母数から除す)</p> <p>イ・経験の浅い教員による相互授業見学・相互検証一人平均3回を維持(平成25年度3回)</p> <p>・学校説明会参加(のべ20名)、地域の中学生進路行事参加(2回)</p> <p>ウ・遅刻率を前年度比30%減少(平成25年度は前年度比39.9%減)、欠席率・退席率維持(平成25年度は前年度に比べ欠席21.7%減、早退24.1%減)</p> <p>エ・指定校推薦入試以外での大学入学者数2割増、国公立大学合格・難度の高い私立大学合格 進路未決定卒業生率を維持(平成25年度は前年度に比べ7.3%減の4.2%)</p> <p>・資格取得4名(平成25年度2名)</p> <p>(2)・インターネット会議等による交流の継続維持(平成25年度5回)</p> <p>(3)ア・委員の半数交代と女性委員率5割(平成25年度は女性率14%、すでに達成・評価なし)</p> <p>イ・保護者・地域住民の傍聴のべ5名(平成25年度0名)</p> <p>・実時間数6時間(平成25年度約4.5時間)</p>	
<p>3 貢献できる社会の一員として、地域に見守られ地域に</p>	<p>(1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携</p> <p>イ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続と地域への情報発信強化</p> <p>ウ 学校からの発信強化</p>	<p>ア・保育園・小学校・中学校・高齢者福祉施設・城東区役所・警察署との交流・連携の継続と強化</p> <p>イ・「成城カルチャー講座」継続</p> <p>・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。</p> <p>ウ 学校からの発信強化 ・校長が先頭に立った情報発信の継続 ・校門横木製掲示板、「成城高校電子掲示板」、成城高校メールマガジン、ホームページ更新、地元自治会掲示板、地域の回覧板回数活用充実 ・中学校進路指導主事・教員及び塾・予備校関係者対象学校説明会 ・マスメディアの活用</p>	<p>ア・野菜工場での生産物の配付を4回(平成25年度3回)</p> <p>イ・受講人数のべ40名(平成25年度はのべ70名)</p> <p>・文化祭・体育祭来場者数600名</p> <p>ウ・活用・更新の合計回数を400回とする。(平成25年度合計約370回)</p> <p>・マスメディアの活用7回(平成25年度は13回)</p>	